

小樽商科大学のグローバル教育 ーギャップイヤー・長期学外学修プログラムの開発ー

国立大学法人 小樽商科大学
大津 晶・渡邊すず香・村上竜清

1 はじめに：事業の概要

小樽商科大学では「北海道経済の発展に寄与する『グローバル人材』の育成」を推進するため、グローバル戦略推進センターの教学マネジメントのもと、学事暦改革や長期学外学修プログラムの拡充と教育効果の測定・検証等を実施してきた。本事業においては、従来から本学が先進的に取り組んできた地域連携教育やグローバル教育における学外学修プログラムの充実をはじめとして、クォーター制の導入による学事暦改革、1年間の入学猶予制度を基礎とした本格的なギャップイヤープログラムの構築、新たな主専攻コース「グローバルコース」の設置及び「グローバル総合入試」の導入といった改革を推進した。さらにこれらのプログラム参加学生を中心に教育効果の可視化・検証とプログラム改善、学外学修科目の特徴に応じた成績評価基準による多面的な成績評価等にも取り組んだ。

2 小樽商科大学の「グローバル人材」育成

上述の「グローバル人材」を育成するためのカリキュラム構築を行った。

- ・ グローバル教育科目群（全学生を対象）：グローバルブリッジプログラム／地域連携ブリッジプログラム／海外事情科目（短期語学研修）等
- ・ グローバルマネジメント副専攻プログラム（定員：30名／年）：専門の学科配属（メジャー）とは別に設計された副専攻（マイナー）プログラムで、原則的に日本人学生と留学生の混成クラスを構成し、英語による少人数教育を行う
- ・ グローバルコース（定員20名／年）：本学のグローバル教育を象徴する主専攻コースで、令和2年度より本コース独自の入試（グローバル総合入試）を行い、入学猶予制度（ギャップイヤー）を活用した海外派遣プログラムも本コースにて本格展開させる予定

3 小樽商科大学の入学猶予制度（ギャップイヤー）

APテーマIVは「長期学外学修プログラム（ギャップイヤー）」を掲げ、各採択校はそれぞれの教育課程の特徴を踏まえ、教職協働を通じてカリキュラム改革と教育体制の充実に取り組んだ。その中で本学は国立大学初となる、文字通りの本格的な「入学猶予制度」の導入を実現させた。その特徴は、

- ・ 入学猶予期間を活用した、より長期間の多様な学外学修を経験させるプログラムの設計
- ・ 大学の学びに対する動機を強化し、主体的に学修に取り組む学生を育成するための充実した支援

4 ブリッジプログラムの開発運用と効果測定

本事業を通じて、長期学外学修プログラムの開発・運用を加速させ、本学のグローバル教育を充実させることができた。加えて学生の教育効果を可視化して各プログラムの改善を行う体制整備を進めた。

- ・ グローバルブリッジ教育プログラム：海外事情科目（アジア・オセアニア事情、ヨーロッパ事情、アメリカ事情）、語学研修プログラム、交換留学プログラム
- ・ 地域連携ブリッジ教育プログラム：社会連携実践（長期インターンシップ／サービスラーニング／地域連携PBL）

今後はグローバル総合入試の実施（令和2年度）、グローバルコース（主専攻）の開設（令和3年度）を計画的に進めつつ、各プログラムの持続的な実施と不断の改善に取り組んでいくこととしている。